

第 15 回 指導医のための教育ワークショップ

と き 平成 31 年 3 月 9 日 (土)・10 日 (日)

ところ 山口県医師会

[印象記: 山口大学医学部消化器内科学 篠田 崇平]

3 月 9～10 日に「第 15 回指導医のための教育ワークショップ」が開催されました。参加者の一人として感じたこと、考えたことなどを印象記として書かせていただきます。

今回のワークショップは、元々 2018 年の秋に開催が予定されていましたが、台風による日程の延期があり、この平成最後の春に行われることとなりました。私自身は、一体どのようなことを学ぶのかなど、さほど事前の情報収集は行わずに参加しましたので、ドキドキしながら初日の開会式を迎えました。参加者は合計 25 名で、さまざまな病院、診療科、年齢層から構成されていました。まずは他己紹介でお互いに情報開示をしながらコミュニケーションを図った後に、3 グループに分かれてワークショップを行いました。

研修日程は、初日は朝の 9 時から 19 時 30 分まで、2 日目も朝の 8 時 30 分から 16 時 50 分までと、非常に濃密なスケジュールとなっていました。まず始めに「社会が求める医師の基本的臨床能力とは」を議論し、各グループがそれぞれ「医師としての社会貢献」、「患者安全のマネジメント」、「チーム医療」というキーワードの抽出を行



いました。各グループが、それぞれのキーワードに基づいて研修目標、研修方略、研修評価をどのように行うのか、実際にそれぞれのグループで話し合い、書き出し、発表し、再度修正、書き出し、発表し、作成を繰り返す、というのが主な内容でした。具体的には、General Instruction Objective (GIO: 一般目標) として期待される成果を明示した後に、Specific Behavioral Objectives (SBOs: 行動目標) を設定します。各 SBOs を知識、態度、技能に分類し、それぞれに適した方略 (目標に到達するための方法) を準備し、さらに効果的に遂行するため、形成的評価、総括的評価の時期、方



法を設定する、といった内容です。私自身、これまで研修医の指導に関わる上で、何となく研修目標があることは把握していましたが、その言葉一つ一つに指導医の先生からのさまざまな願い(「こういうことができるようになってほしい」、「こういうことに気をつけてほしい」、など)が込められていること、研修の設定にこれだけの時間と労力が割かれていることに改めて驚かされました。また、私たち参加者が実際に手と頭を動かすことで、社会や厚生労働省から求められている研修の仕組みと成り立ちを、具体的かつ体系的に理解することができました。それ以外にも研修指導医のあり方や、メディカルサポートコーチング、Significant Event Analysis (SEA) とフィードバックの仕方、医学教育変革の流れ、臨床研修充実に向けたディスカッションなど、非常に充実した研修内容となっていました。とても濃密で、慣れない頭の使い方(?)をしましたので、思った以上に頭も体もクタクタとなる2日間でした。また、1日目の夜には情報交換会もあり、日頃なかなかお話を伺うことができない方々から、日常診療や研修指導の悲喜こもごもなど、さまざまなお話も伺うことができて、とても有意義な時間でした。

社会が医師に求めるものは多岐にわたり、それに比例して研修医とその研修システムに求められるものも膨大なものとなっています。さらには、山口県の医師不足が叫ばれ、日々の診療に追われており、なかなか穏やかな心で、研修医指導に取り組むのが難しい、というのが私も含めた皆様の



現状だと思えます。そういった難しい状況にはありますが、本ワークショップ同様に、病院、診療科、年齢にかかわらず、“オール山口”で一丸となって研修医指導に取り組み、少しずつでも研修医が山口に定着することが現状の打破に繋がり、そしてより良い研修指導を行う。なかなか即効性はないかもしれませんが、そういった良好なサイクルを生み出していければ、中長期的な医師不足の現状改善に結びつくのかもしれませんが。今回のワークショップで学んだことを、微力ではありますが、明日からの診療と研修指導に早速役立てて参りたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りしてタスクフォースの先生方にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

